

栄町見聞録

平成二十九年六月(定例議会報告)
第168号



執筆発行 栄町議会議員
野田 泰博
栄町安食台1丁目8番7号
メール yasnodat876@gmail.com
Tel 0476-95-3665



平成29年6月定例議会報告

・近未来の栄町の姿をどうやって描くのですか？

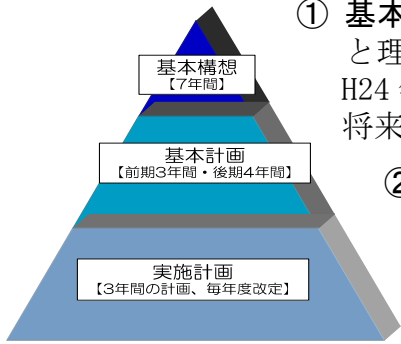
私の一般質問 岡田町長とその執行部にこれから着手する第5次総合計画について質問しました。第5次総合計画とは今年から来年度にかけて町と町民が作り、3年後から8年間の栄町の基本的な設計図となります。

町は予算がなければ動けない。予算は設計図がなければ配分できない。団塊の世代が高齢者になって、所得税を納めなくなってきた町は、若い世代が増えるようにする施策が必須。これから約2年かけて、詳細に町づくり計画を立てねばならない。そこで、この町のキャプテンでもある岡田町長とそれを支える職員に、どのような手順、スケジュールを現時点で考えているか聞いて見た。また現在大きな問題になっている各種施設の延命化、住民が気がかりな「墓地情報」などについて質問した。

現在はどうな設計図で動いているのか？

- ・現在の設計図(第4次総合計画) 基本構想期間 H24~H30
スローガン:「誇りと愛着の持てる町」
- ・将来の姿 : 人が元気、町が元気、皆で作る水と緑のふるさと栄

皆様はこの6年間に、この町に誇りと愛着を持てるようになりましたか? すでに誇りと愛着を持っている人も、「まだまだじゃの~」と言う人もぜひ次を読んでください.....



- ① 基本構想とはすべての計画の元になる将来像と理念を実現するための目標(いわば家訓) H24年の基本理念「誇りと愛着の持てる町」 将来像「人が元気、町が元気、みんなで作る町」
- ② 基本計画 地域自治、環境、健康福祉、産業、教育文化の5基本目標と行政目標
- ③ 実施計画 基本計画を1年ごとに実施するための予算付き計画

前町長急逝で岡田さんが町長になり7年目

二度の選挙を無投票で町長になったのは、町民が岡田町政を認めているからだ。

岡田町長も以前の町長と同じように財政難で苦しんできた。しかし以前と違うのは財政に強い副町長が片腕としてフォロワーしていることだ。

また町長就任直後の東日本大震災は町を容赦なく破壊した。国や県からは災害復旧の対策がらみの資金が出てきた。その資金を岡田町長は上手に活用し、復興させた。

昭和40年代から始まった大型団地作りで、栄町は9千人が2万6千人まで急激に膨らんだ。人口増加率日本一になった町でもあった。人口増加のための各種施設は巨額の借金を背負って建設され、こうして栄町は借金王国となった。

私がサラリーマンのま

まで議員になったのも町の人口増加に比べ借金の増加は多すぎる、アンバランスは将来の我々を苦しめると思ったからだ。しかし当時はイケイケどんどの構想と計画であった。議員になって何度も一般質問で、栄町の人口計画は間違っていると指摘。やがて人口増加は終焉、減少に転じた。残されたのは5万人で背負うはずの借金、それを2万人で肩代わり。岡田さんは2期目も終わるこの時期でも「町長などやりたくない」とぼやく。私は、ぼやきは口に出すなと言ってきた。だから今回の一般質問で、将来の町づくりの根幹に迫り、突

然質問した。

「平成38年度までの計画を作るなら、それまで町長として責任を果たす覚悟でやっていただきたい。」

岡田さんは口ごもった。「町長をやるなら、ぼやくなど言いたくない。」

「ごめんね、町長」

(野田の一般質問その2) 町の財産(公共施設)の有効活用について

使われていない施設、旧役場庁舎、使用していない火葬場施設、有効に使われていない小学校、旧町民プールの跡地などの使い方。まただましまし使用している竜角寺台の町民プールは抜本的な修理が必要である施設。維持管理が必要な施設と処分すべき施設を明確にして、第5次総合計画づくりに反映させるべきだ。部分的整備よりも抜本的な大規模修理を施した方が良い場合もある。どのような分類で公共施設を有効に生かしていくつもりか。

(答弁) 行政財産と普通財産の区別説明

・旧役場庁舎、旧火葬場施設は倉庫として使用中。
今後一部は障害者福祉事業者が使用協議中。
・旧酒直小は民間、シルバー人材センター、地域自治会、他の団体使用中。
・旧北辺田小は民間会社、地域団体に貸しているが賃貸料金未納の問題あり。解決に鋭意努力中。
・旧プール跡地 国土交通省の管理地で現在は長門川公園として町が借りている。

行政財産の管理

竜角寺台にある町民プールは昨年管理不行き届きで、小学生が水泳の授業を急遽延期した。この問題は管理が悪かったために起きた。壊れたところを小手先で直していたが、本格的に故障してしまった。来年度は大規模修理を予定している。

(野田の一般質問その3) 墓地について

栄町の「広報さかえ」2月号に町管理の墓地3地区の募集があった。この募集は他に墓地を買われて町営墓地を再び整備したための募集であった。町営墓地は107基あるが、今後も増やす予定はあるのか。

(答弁) 予定はない。

(解説) 栄町民から電話があつて、栄町で終活することを考えているが、町は町営墓地を作ってくれないのかとの問い合わせがあつた。5月10日(土)テレビで横須賀市営墓地の状況を報じていた。横須賀市では300の市営墓地は3年でなくなり、次の墓地が開設されるとのこと。テレビではお墓を購入したが霊園が倒産した話

題を流していた。さらに駅前ビル式墓地が最近売れ始めたが、ビルで機械式のお墓は、必ずメンテナンスが必要。

お墓を購入してもボケてしまつて、購入したことが忘れていた人がいた。また子供がいなくて、近所のお寺から墓購入を断られた話、などを紹介していた。最近では樹木葬、海洋散骨などがあつてお墓を作らない人もいるとのこと。栄町の町営墓地107基は少なすぎると思っているが、町は町営墓地増設を全く考えていない。栄町に移り住んだ人が「栄町を終の棲処」とするにはまだまだ長い時間がかかりそうだ。

のだやすひろの議会報告会(講演会)

題目 終活のスタイル

「葬式や供養のスタイルはこんなにも多様化している」

月日 7月9日(日)午後3時

場所 ふれプラ大会議室 講演参加は無料

講師 村田ますみ氏

(株)ハウスポートクラブ代表取締役

故人をどのような最期で送るか。多様化した時代を見つめ、お墓の問題、散骨の実態、悔いのない人生の幕引きについて一緒に考えませんか。



主な著書、「お墓に入りたくない、散骨という選択」朝日新聞出版社

終活スタイル

栄町の年齢3区分別人口推移 1965-2060



栄町の年齢3区分別構成比



最初に

終活と言う人生最後の場面について最近よく相談を受けている。私も栄町で多くの友人を得て、また何人かの死に直面し、葬儀に立会い、終活に直面する年代に達した。いつも思うことだが、死は突然やってくる。

栄町の基本構想に「誇りと愛着の持てる町」とあるが、誇りは別にしても、多くの人は愛着があるからこそ栄町で暮らしているのだと思う。ここに住んでいつかは死んでいく自分が、生きている間にやらねばならないことがあるとしたら、この町を長年支えた人たちが安心して旅立つことができるようすることは自然である。

栄町の人口推移

栄町が作った資料に2060年までの人口構成推移がある。安食台など5団地を作る前の9千人代に戻るの2050年頃だ。現在の2万人超えから、1万人はいなくなる。その中の団塊世代は多分ほとんどが消えているだろう。

団地に移り住んだ人、特に私と同じ世代が一番多いのだが、葬儀後の墓について心配が、大金をはたいてお墓を購入することは大変抵抗がある。また遠方にお墓を持つたとしてもそこまでいく方法がないからだ。せめて栄町に自分の墓があればと考えるのは自然である。

栄町に新規墓地計画はない

昭和42年今の安食台地区に4628㎡の町営墓地があった。しかし団地が作られる時、町は開発業者にその場所を売却した。

昭和55年に再び町営墓地を今ある安食台3丁目の横に以前の広さの5分の1、約1000㎡、区画は107基(当時85基)の墓地を作った。そして完売。この移転で何故小さくなった理由は分からない。個人が墓を移転した場合はその区画を再整備して販売するとのこと。現在、町営墓地購入は無理である。

墓の問題点

お墓を作るという裏には現代の問題も関連している。お墓の石は海外産が増えてきている。石は国会議事堂に使用されている「御影石」と言われるが、国内産は採掘量が減り、代わりに輸入ものが増えている。私もブラジルに水晶(高純度シリコンの原料)を買い付けに行ったとき、御影石に似た石を採掘している現場に居合わせた。聞いたら、日本は大得意様とのこと。こんな重い石をブラジルから輸入するなんて、日本はすごいなと思えなかった。そのような硬い石でも、お墓の石として日本で使う場合、剥離の問題が起きていくとのこと。日本の墓文化を維持するために自然破壊を見逃さずしていいのだろうか。またセラミックスの骨壺に焼いた人骨を入れるれば未来永劫に残る。世界中で焼いた骨がいつまでも残る。これが文化なのだろうか。

農家の長男は栄町に残って農業を継ぐ。役場職員になって、農繁期には役場を休んで田植えをするために役場は休みやすい。と聞いたことがある。その時は何かほのぼのとした気持ちで聞いた。今でも違和感はない。長男が多いというのは、お墓を継ぐという人が多く、自分の墓など心配する必要もない。東京で仕事をしようとして来た人は長男でなく、それ以外が多い。栄町に移住してきた人はどちらが多いかというと、長男は墓の継承者だから、墓購入の心配はしない。

ご先祖様の墓は分骨ばかり

明治政府が近代国家を建設するために、国民の統治体制を確立する必要性に迫られていた。家長制度を確立すべく、明治31年明治民法が成立した。その制度の中で墓は祭祀財産として家長(長男)が引き継ぐとされた。都市文化の発展で、大正時代に火葬技術が格段と進歩し、葬祭場が誕生。葬祭場は全国に急速に広まり、葬祭場、火葬、墓地の三点セットも育っていった。

もし栄町にお墓を作っても、私が顔を知っている孫まではお墓に来るであろうが、それ以降が墓に来ても眠っている私は誰だか分からないであろう。それより父がいっても冗談っぽく言っていた。

散骨のエピソード

石原裕次郎が亡くなった時、兄の慎太郎が茅ヶ崎の裕次郎灯台に海洋散骨を計画したが、当時の法解釈ではできないとされた。今は節度を守ればできるようになっている。

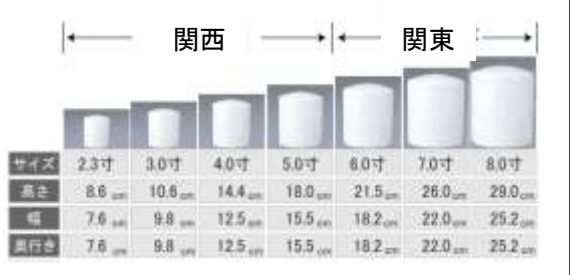
地上での散骨は他人の土地には散骨できない。ルールを守れば、気象用の風船を大気圏外にあげて散骨できる可能性もある。

あとがき

平成29年6月定例会はすべての議案が通過した。それもそのはず、6月は3月に今年度予算が可決した次の議会である。議案も少ないし、前年度の使わなかった予算残などが説明され、議案で紛糾するものはなかった。

共同墓地 栄町の田舎道を車で走ると共同墓地に出くわす。その昔、栄町のいたる所に個人の墓があつたそうだ。村はずれの墓地は土葬だったとのこと。戦後土葬が衛生面で禁じられて斎場が整備され、火葬が一般的になった。すると火葬での納骨の儀式が行われるようになった。関西では骨壺は小さく、関東は大きい。関西は主に喉仏中心のお骨をいれ、関東では全身のお骨を入れる。骨壺の大きさに違いが出たこと。(下図参照)

関西と関東の骨壺サイズの違い



国会では、政府が理不尽な運営を暴露され、説明責任なんかどこ吹く風、強行裁決、弁解、惨めな野党の追求。海外では各国でテロ発生、隣の国は核攻撃で日本を火の海にするぞと脅しても、日本は国民を守ることより監視を強化しようとしてくるだけ。政治家が何をすべきか考えさせられるこの3ヶ月間だった。